

地域連携へ 可能性探る

京都で日本NIE学会

日本NIE学会の第14回大会が11月25、26の両日、京都府宇治市の京都文教大で開かれた。「地域連携とNIEの可能性」をテーマに全国の教員、研究者らが意見交換した。

初日のシンポジウムで、元新聞記者の宮沢之祐・京都府向日市立寺戸中教諭は「新聞は地域を知る重要な情報源」とし、市の予算の記事を教材にしたことを発表。日本新聞博物館の尾高泉館長は「情報が爆発的に増えている中で、真実を伝えるという新聞の役割は高まっている」と語った。

熊本日日新聞からは大学生らが新聞を題材に語り合う「新聞カフェ」、信濃毎日新聞からは学校での新聞つくりを通して書く力を伸ばす方法などについて報告があった。

2日目は全国の教員らが自由研究発表を行った。岡山県内の教員の発表を紹介する。(黒崎平雄)

畝岡睦実氏(岡山南高教諭)

SNSで論理検証



岡山南高(岡山市)の畝岡睦実教諭は、奈良女子大付属中等教育学校(奈良市)の二田貴広教諭と共同で、新聞記事やネット上の言説について、教育用SNS(会員制交流サイト)を活用して議論する取り組みについて発表した。

昨年、テレビ報道を受けてネット上で起きた「貧困たき問題」を題材に、同中等教育学校と畝岡教諭の前任校の城東高(岡山市)の生徒が意見交換し、「論理の展開などを検証するのに役立つ」とした。

松井圭三氏(中国短大教授)

ワークブック活用



中国短大(岡山市)の松井圭三教授は、関西女子短大(大阪府柏原市)の今井慶宗講師と共同で、新聞記事を読んで語句を調べて感想を書くワークブック「NIE児童家庭福祉演習」を作成して授業で活用したことを報告した。

中国短大保育学科2年生のアンケートで、ワークブックが制度や法律を知るのに役立つと考える人の割合が約6割だったことなどを報告。効果を高めるために、取り組みの継続が重要だとした。

北澤正志氏(川崎医療福祉大講師)

読む習慣付け必要



川崎医療福祉大(倉敷市)の北澤正志講師は同大の國弘保明講師、川崎医科大学(同)の橋本美香准教授との共同研究として、川崎医療福祉大1年生を対象とした新聞に関するアンケートについて発表した。

約7割が「新聞を読む必要性がある」としているにもかかわらず、定期的には読む人は約1割という結果を報告。医療の情報を得たり、メディアリテラシーを高めたりするために新聞を読む習慣を付けていくことを今後の課題に挙げた。